

第3回大洗町立学校のあり方検討委員会 議事録

開催日時：令和8年3月26日（木） 13時30分開始 15時00分終了

場 所：トヨペット スマイルホール 大洗 研修室

出席者：検討委員24名（2名欠席）

事務局7名

1. 開会

2. 教育長あいさつ

今回の第3回目は、約1000名の方にアンケートの回答をしていただいたものを、事務局で集計をし、生のデータを基に皆さんに忌憚のないご意見をいただきたいと思います。今回で結論を出そうというわけではなく、皆さんのご意見をいただきながら、前に進むということです。未来の子供たちの教育環境をどのようにしていくかということです。理想と現実というものもあると思いますが、皆さんのご意見を一つにまとめていくような会議になっていければと思います。ご意見をいただきながら、方向性を作っていきたいと思っていますので、皆さんのご協力よろしくお願いします。

3. 議事

事務局：委員の過半数を超えて出席がありますので、会議が成立していることを報告します。

委員長：議事に入ります。はじめに、アンケート調査の結果と検証について議題とします。事務局から実施した状況とその集計結果について説明をお願いします。

事務局：資料の2ページをご覧ください。(1) 調査対象者及び「アンケート種類」について、このアンケートは、調査対象の方をアからオまでの5つのグループに分けて実施しました。アは小中学校に通う児童生徒、保護者、イは保育施設に在籍している児童の保護者、ウは小中学校の教職員、エは保育施設の代表者及び保育者の方々、そしてオが小学校6年生と中学校3年生ということになっています。また、その右側はアンケートの種類です。アとイはどちらも保護者になりますので、5つのグループですが、アンケートは4つの対象者に行ったという構成になっています。次に(2)の実施方法ですが、基本的にはウェブによるアンケートということで実施しました。各グループに行き渡るような方法でマチコミやQRコード、ウェブを使って実施しています。次に(3) 調査期間です。オが児童生徒になりますが、オは3月2日から6日の5日間で実施しました。それ以外は、2月25日から3月8日の12日間という期間をとって実施しています。次に(4)の回答率です。上から58.4%、19.2%、87%、41.9%、75%となっています。ここまでがこのアンケートの基本データになります。

それでは実際のアンケートについて説明します。A3の資料が2種類ありますが、左上に対象保護者様と書いてある方をご覧ください。こちらの資料は、アンケートを実施した項目そのままの結果になっています。データ自体は実数値ですが、ここに示しているのは集計をした、いわゆるローデータというものです。円グラフのところを見ますと、中に29%、54%と、パーセント表記になっています。また、問3のようなところは選択式となっていて、棒グラ

フのところに数字が入っています。要するに回答者の答えた数です。基本的にはそのような形で整理し、4つ全てそのように整理しています。また、カテゴリ別で比較したいため問番号は違いますが、内容は被るような形で、保護者に聞いたことは児童生徒にも聞いていますし、教職員にも聞いているといった状況になっています。

2 ページ目を開いてください。2 ページ目の問 10 の 1 のところは前の質問、問 10 で「子供たちが学ぶ理想的な環境」について、どの方法が適当だと思うか、その理由について回答を求めたものになります。こちらは文章で回答していますので、別紙参照がそれになります。例えばこの 3 ページ目に書いてあるものは、まとめた資料として、保護者から 415 人回答いただいています。415 並べますとなかなか目で追えませんので、自分の方でまとめました。全て回答をいただいたものをキーワードで抜き出して、その抜き出した率がどのくらいあったのかというものを割合で示したものです。大まかな分類に分け、例えば一番上、通学距離・登下校の負担や安全面への不安が約 28%というのは、定量定性的に約という言葉を使い、28%ほどあったというまとめ方です。「ご意見のまとめ」は、一人の方が実際に回答したものではなく、上がってきたものを全部まとめて文章化したものです。かなりの分量がありますので、生成 AI の技術を使い、作成をしていることをご了承ください。

5 ページの自由記述についても、問 10-1 と同様にまとめています。7 ページ目からは小中学校教職員対象に同じ構成で続きます。その後ろ 11 ページに保育従事者のアンケート調査と続いています。

それではもう一つの資料、(要旨)と書いたものをご覧ください。たくさんあるデータを、事務局で、重要な部分を要旨という形で、A3 用紙 1 枚にまとめました。一番上のところ、「あなたが考える小学校の 1 学年あたりの学級数は何学級程度望ましいと思いますか」の質問に対して、上の段の円グラフでは、全てのデータの集計結果です。下段の①が保護者、②が小中学校の教職員、③が保育施設の従事者、この 3 種類のデータを合算して、それを比率分配にかけたものです。全データ集計で一番大きく占める割合のところを見ると、「2 から 3 学級が望ましい」との回答が 75%。また、「4 学級以上」と合わせて、複数学級という視点からいくと 79%で、8 割に近い結果が出ていることが読み取れます。この傾向は、それぞれの①・②・③の回答結果で同様の傾向が見られています。

続きまして中段のところ、中学校の 1 学年あたりの学級数の調査です。こちらが一番多く割合を占める箇所を見ると、「2 から 3 学級が望ましい」が 70%の回答がありました。また同様に、「4 学級から 6 学級」も合わせて考えますと、82%になるところも読み取れます。同様にその回答項目①・②・③も同様の結果が見られています。

一番下の段「今後、子供たちが学ぶ理想的な教育環境について、どの方法が適当だと思いますか」というものです。全データ集計を見ると、「現在の学校配置で良い」が 50%。「統合した方が良い」及び「統合はやむを得ない」を合わせると 46%という結果となります。この質問は①保護者が「統合した方が良い」及び「統合はやむを得ない」が 42%、小中学校の教職員が 50%、保育施設従事者が 69%となり、それぞれ若干違ってきていることが読み取れます。

「全体のまとめ」として書きましたが、1 学年あたりの学級数については、本調査の全てにおいて単学級ではなく複数学級を望むという回答が約 8 割という結果でありました。一方で、子供たちが学ぶ理想的な教育環境について、全データ集計では「現在の学校配置で良い」が

「統合した方がいい」、「統合はやむを得ない」の結果より若干上回ってはおりますが、回答者別での集計ではその結果に違いが生じたのも事実であるということでまとめました。

3 ページ目をご覧ください。統計におけるいわゆるクロス集計を行いました。一言で言うと、クロス集計というのはグループごとで区切りをつけ、そのグループ間で比較検討する手法です。例えば一番上は、要旨の一番上の集計結果を、調査対象者別・エリア別・学校別に棒グラフで整理したものです。

同じようなやり方で 4 ページは中学校の学級数についてクロス集計を行ったものです。5 ページは「理想的な教育環境について」クロス集計を行った資料になっています。

さらに 6 ページ目、7 ページ目も各観点別において、クロス集計を行ったものですので、見ていただければと思います。

最後に 1 点説明します。表紙の(要旨)の一番下段のところ、「子供たちが学ぶ理想的な環境についてどのように思いますか」ですが、ここは大人の意見であり、児童生徒の意見が載っていません。5 ページ目の下段のところになります。この点は「将来学校を統合することになったとしたらどう思いますか」と児童生徒に問いかけた集計表です。「統合しない方が良い」31%、「統合した方が良い」13%、「統合は仕方ない」27%となります。「統合した方が良い」、「統合は仕方ない」を合わせると 40%になるという結果です。児童生徒のデータは 5 ページ目にあるということでご確認ください。

委員長:集計作業大変だったと思います。ご苦労様でした。これからの進め方ですが、皆様方にあらかじめアンケート結果にお目通しをいただいていますので、それぞれの感想も含めて意見をいただき、その辺を重ね合わせて、どのように分析したかということで、まとめていきたいと思っています。そのまとめについては、今日この場では難しいと思いますので、皆さんからいただいたご意見を踏まえて、事務局で再度整理していくと考えていますので、ご協力をお願いします。皆様に、できれば全員からご意見いただきたいと思いますので、よろしくお願いします。

委員:保育施設の児童の保護者の回答率が悪いのはなぜかということ、それから「あなたが考える小学校の学級数、中学校の学級数はどうか」の質問で、2・3 学級ということが 70%以上になっていますが、大洗小学校と一中はすでに 2 学級ということで、あまり意味のあるものではないと思います。これが一人歩きするとかえってまずいかなと思います。また、現状の学校の位置ですが、現状の方がいいという方が各地区多いことを今一度、皆さんで確認した方がいいのではないかと思います。

委員長:今ご意見いただきましたが、それに関連してご意見がある方がいらっしゃればお願いします。

事務局:最初の 1 点目について、町内保育施設の児童の保護者の回答率が少ないということですが、保育施設代表者が揃った会議の時に直接、アンケートの主旨をお伝えし、お願いしました。お願いということで、任意と言えは任意であり、最終的にこういう結果になってしまった、ということを受け止めなければいけないと考えています。

事務局:回答率について補足します。今回のアンケート調査は、子供がいる世帯に全て配布をしています。今質問いただいた回答率は、保育園の園児のみがいる保護者の数値となります。例えば、各世帯の中に小学生も中学生もいる場合には、今回のアンケートには一番上のお

子さん分で答えるように指定していますので、保育園児がいる家庭が小中の保護者に包含されているということで、19.2%になっているとご理解いただければと思います。

委員長：今の事務局の説明でよろしいですか。今、委員さんから言っていた件も含めて、関連してでも結構ですので、ご意見があればぜひご発言をお願いします。

副委員長：大洗町に住んでいるわけではないので、外側からの発言になるかと思いますが、若干矛盾があるというか、理想的な教育環境というのはある程度の大きさがあつた方がいいと思いつつも、現状がいいと思うことは理解できます。多分多くの人は現状を変えることに対してはどうしても不安になるので、抵抗が働き、こういう矛盾が出てくるのはある意味で当たり前というか、起こりうると思います。でも、こういう意見が出ている以上、急いではいけないってことは確かだと思います。なぜかという、不安に思っているのだから、そんなこと知らないと言って改革を進めるわけにはいかない。なので、少しゆっくりと考えた方がいいと思います。考えるのは大変ですけど、ゆっくり考えると時間がかかるとは思います、それが一つ思いました。

もう一つはこのアンケート結果そのものではないのですが、理想的な教育環境が2から3学級とある時に、僕が知っているだけでも、大洗はすでに両校、両地域の交流をすごくして、効果が上がっていると理解しています。だから、そういうことを積み上げていき、理解してもらいながら改革を進めていくとすれば、前回も言いましたが、多様な、あるいはあまり同志ではない人たちが包摂されて参加し合えることはとてもいいことだと思うので、そういうふうにも読めるのではないかと思います。ヒントになっていませんけど、感想を申し上げます。

委員長：副委員長からいろいろお話いただきましたが、やはり現状のままだいいって方がかなりいますし、関係される方で、順番にお話を聞かせていただいてもよろしいでしょうか。では最初に、PTAの方から、このアンケートの結果も踏まえつつ、ご自分の考えでも結構ですので、感想も含めてご発言をいただければと思います。

委員：このアンケートの結果を見ますと、学校の配置は今のままというのが多くて、だけでも学級数は複数学級がいいと。もし統合するのならば、それも仕方ないかなという方が多いというところで、確かに矛盾があるなと私も感じました。非常に無責任な発言になってしまっていますが、子供が増えれば万事解決だなというのが率直な感想です。

委員長：ありがとうございます。

委員：皆さんのお話にあるように、アンケートに対して矛盾があるということが言えたのですが、ただ、児童生徒のアンケートを見ると、「安全で快適な生活を送りたい」とか、「スポーツや文化活動をたくさんしたい」という、子供たちの答えというか、期待することを見ると、たくさんの子供たちで過ごした方が、これからはいいのではないかなというのが率直な意見です。

委員長：ありがとうございます。

委員：先程副委員長がおっしゃったように、現状を変えるというのは皆さんとても不安に思うから、やっぱり現状維持がいいという方もきつといらっしゃる、と思ったのですが、保護者アンケートの自由記載のところの欄に、不透明なことが多すぎるっていうご意見があります。仮に統合するとなった時の、その次の、ではどうやって登校するのか。例えば南方面

の保護者から、よく聞くのですが、一中とか駐車場がないんですね。仮に運動会となった時に、どうやって遠い人が見に行くのかとか、細かいところかもしれないですけど、不安がたくさんあると、やっぱり今のままがいいのではないかというように思う方も多い気がするので、進める中でそういう部分を先に出していくと、それならば統合でもいいかとか。別の考え方になる方も多いのかなと思いました。

児童生徒のアンケートで、子供でも統合は仕方ないという、ちょっと大人みたいな意見を言っている子が結構な割合だったと思いました。子供も大人も保護者も何が不安かというのをピックアップして、それを「仮にこうなった場合はこうしていきます」という提案を先に出すと、ひょっとしたらもっと円滑に進めていけるのではないかなという気がしました。

委員長：大変貴重なご意見ありがとうございます。まさしくその通りかもしれません。では地域の代表の委員さんをお願いします。

委員：学地代表という形で来ていますが、アンケート調査に関しては、私が思った通りの結果になっているなと思います。私は10年前も磯浜小学校と祝町小学校の統合委員会もやらせてもらって、磯浜小学校の閉校式の委員長も務めたのですが、先程もPTA会長さんが言われた通り、細かい点がたくさん浮かぶと思います。第1回委員会時にいただいた国・県の要領を見ると、確かに統合した方がより大洗町のためになると思います。統合する場合、「いつ」とか「いつからなのか」とか、「どこにどう移すのか」をよく考えてやらないと、私の経験から、統合が終わってから、「なぜ統合するんだ」など、地域の方にいろいろ言われました。なので、統合することのメリットなどをしっかり周知していただき、皆さんに理解してもらい、統合はやむを得ないという考えの方も、他人に責任がある、自分は関係ないという感じではなく、その辺りの趣旨を理解してもらって進めた方がいいと思います。

委員長：ありがとうございます。まさしくその通りだと思います。では続いてお願いします。

委員：アンケート結果自体私も想像通りというか、思った通りの回答が多数でした。この中で思ったことは、児童生徒の回答で、選ぶからこういう結果になったというのものもあるかもしれませんが、基本的に前向きな意見で、プラスに考えている子が多いなと思いました。そういう意見が多いことから、統合するのもいいことなのかなという感じもしました。

あと現状維持がいいというのはやっぱり、変えることは大変だから。それから、何年か後は保護者ではなくなってしまう保護者もいますので、そういうところも考えると、現状維持を選ぶという部分もあったのかなと思いました。

委員長：ありがとうございます。では次の方をお願いします。

委員：私も守りに入った考えを持っている方なのですが、南エリアの保護者の方が、消極的な感じがこのアンケート調査でよくわかりまして、守ってばかりではいけないと考えを改めます。来年度の南小エリアの新入学児童の数が減ってしまってびっくりしました。このままでは、本当に消滅してしまうのではないかという、大洗自体が、そういう危機感を抱きました。何のためにやっているのかを考えたら、子供たちの将来のために手伝えることを今、私たちはやっているというのをすごく感じまして、これから前向きに検討したいと思います。

委員長：どうもありがとうございます。では次は教育委員さんからお願いします。

委員：今までの意見と重なってしまうところが多いのですが、アンケートの調査結果の要旨に書いてあります、小学校の1学年の学級数、中学校の1学年の学級数の結果として、2学級

以上が望ましいというのが、圧倒的に 80%の方が選んでいるわけです。ただ、今度はその教育的な環境、学校の配置については、多分その地元意識とかいろいろ不安なところがあることがアンケートの結果出ていると思います。

「現在の学校配置で良い」を選んだ理由というのは、通学距離や登下校の負担や安全面の不安っていうのが一番多くて、であればその辺の解決策の提示、環境変化による精神的負担、人間関係の不安という部分に対して、それを安心させるものを説明するということによって、解決できるところはあるのかなと思います。

「統合した方が良い」を選んでいるのは、圧倒的にクラス替えができるということが一番であり、1 学級でクラス替えができない 9 年間生活するよりも、何か人間関係に問題が起ってしまった時にも、臨機応変にクラス替えをして、登校拒否になってしまう子供を一人でも少なくできればいいのかなと、私は思いました。

委員長：貴重な意見ありがとうございます。では次の方をお願いします。

委員：アンケートの集計を見て最初に思ったのは、「理想ではわかる、だけど気持ち的には…」というのがだいたいあるなということと、それから別な視点で、子供たちも保護者の方々も今の教育に安心して満足している、いい教育されているなということを思いました。もしここに不安や不満、それから危険なものを感じたら、こういう回答は出てこないのではないかなと思ったところです。どうしても現状、自分が今いる状況で判断するので、今がいいという答えが出てくるのは当たり前だと思います。ですが、検討しているのは、これから先、将来という視点で考えた時に、保護者の方も、お子さんが離れてしまう、子供たちも卒業してしまう、その時にどうすればいいのかという視点で、やはり丁寧にそこを考えていかないと、今の気持ちだけでは解決できないなと思います。先生方が「現在の学校の配置でいい」という理由の一番多かったのが、学校の特色とか校風が生かせる、地域性が生かせるということだったのですが、これは保護者の方の回答では数字は低いんです。ですから教育者は教育内容のことで評価をするし、保護者の方はやはり違った視点で見ているということはわかりました。感想で申し訳ありません。

委員長：ありがとうございます。感想ではなくて分析だと思います。ありがとうございます。では次の委員さんをお願いします。

委員：私は大貫小と夏海小が合併して、ちょうど下の子が入学の年でした。最初の頃は行事とか、いろいろ違って合わない部分があって、そこでいざこざみたいなことは父兄同士であったのですが、やっていくうちに、「あれはいいね、これはいいね」となっていって、そして人数が増えることでできることが多くなったと、夏海小の保護者の方たちも分かってくれました。それで 2～3 年すれば、それが当たり前になってしまうので、お互いの「どっちの学校だ、お前は」ということは全然なく、平和に卒業できたと思います。1 学年 40 人いたので、2 クラスに分かれていて、人間関係で問題があり、クラス替えができたことで良かったことがあります。その後、中学高校と進む中で、今では仲良くできています。その時はダメでも将来良くなるように、将来を生み出すためにも、やっぱり多学級あった方が私はいいと思います。人数が少ないと高校に入ってから、何百人もいる中で圧倒されて行けなくなってしまう子がいるというのも聞いたこともあります。だからある程度の人数は必要なのではないかなと私は思います。

あとは財政的な面もありますか。そういう将来の大洗のこともいろいろ考えて、統合したらなんとなくどうにかなるところが私はあると思うので、細かいところは後から帳尻を合わせていけば、訂正して直していけばいいのではないかと思います。

委員長 :ありがとうございます。それでは教員の話も出てきましたので、学校サイドの方から、ご発言をお願いします。

委員 :保護者も教職員も、メリットとデメリットっていうのは大体同じようなものが出てきているのかなと感じています。そういった傾向の中で、私がすごく思うのは、このアンケートの中で統合がいいですか、そうじゃない方がいいですかというような部分の選択って、自分の持っている資料、そこから答えていくというのがありましたので、先程委員さんでも出ていましたけど、具体的な案があることで、その資料をもとにして、自分はこうしようかな、こう考えようかなというように、具体的な資料が出てくると、保護者の意見だったり、将来を考えた意見だったりが出てくるのかなと感じました。ただ、それを出すことで統合ありきではないかと思う方も出てくるのかと感じましたので、その辺はどうかなという感じもしました。

あとは例えば統合する場合には、こういったビジョンで何年までにこうしたい、次の年にこうしたいとかというように、その先行きが見えるような部分があると、下の年代、幼児を持っている子たちも、親の方もある程度、先を見通した考えができるのかなという感じがしています。

教員に関しては、各学校でいろんな体験活動をさせていただいているので、すごくありがたいなと思います。それは学校の特色として、県の中でも一番できる場所なのかなと思っていますし、先生方が自分の専門ではないことも経験できるので、それはすごく嬉しいなと感じています。

委員長 :ありがとうございます。次の先生をお願いします。

委員 :アンケートの結果は私も予想していた通りかなと思っています。ただ、教職員の方々から見ると、職員が意外と統合はやむを得ないと思っている方が多いと思いました。もう一つは、先程ありましたが、現状のそれぞれの学校の教育活動がある程度認められているとか、保護者の方もその良さということを感じているというところが、実は一番ホッとしました。それがないと、きつともっと偏った結果が出てきてもおかしくないとも思っていたので、現状のままだいいと思っている方が多かったです。予想より多かったというのは、学校としては嬉しいなと思っています。ただ、これから先の人数のこともありますし、いろんなことをいろんな角度から考えていかななくてはならないのは当然のことだと思うので、これから先の大洗町の学校をどう捉えていくかというのが多分大きなところかなと思います。子供が少なくなっていけばいくほど、学校だけではやっぱり教育成り立たなくなってくるので、地域の方の協力は絶対だと思います。そうなると地域の中に学校があって、その学校を地域としてどう捉えていくとか、そこで地域の方と子供たちと一緒に育てていくというのをどういう形にしていくかという視点は絶対に必要だと思うので、子供の人数は当然減っていくけれども、いろんな統合の仕方もあるなと個人的には思っています。やはりすぐに結論が出ることではないと思うので、いろんな角度を忘れないように、いろんな方の意見を少数な意見も大切にしながら考えていかなければいけないなと思いました。

委員長：ありがとうございます。では次の先生お願いします。

委員：アンケートの結果は結果として見ないといけないのですが、ここには次元の違う課題があるのかなと感じました。一つは地理的な課題で、学校が移転することで家から遠くなる家庭が存在するということです。二つ目は、子供たちの実生活の課題です。固定的な人間関係であるのか、いろいろな友人とかいろいろな教員と関わりを持てるのかという、または子供同士で多くのグループが組めるのか組めないのかとか、今固定的な人間関係で苦しんでいる子供もいれば、固定的な人間関係によって恩恵を預かっているという子もいるということなので。あとは地域の課題でしょうか。私がかつて勤めていた学校も廃校となってしまったのですが、その後も訪れて肌で感じることは、子供が地域をつないでいるということです。子供がいなくなると、学校が廃校になってしまうと、地域が何とも廃れてしまうところがあります。地域的な課題として捉えていく必要があるのかなと感じています。浮かび上がる課題について緩和する方策を立てたり、見通しを持ったりするということがむしろ大事なのかなと。なので、統合する統合しないというのはすごく答えが出にくい。複合的にいろんな課題が交じり合っているので、難しいものだなということなので、もう少し小さな次元を考えて捉えて方策を考えていく必要があるのかなと感じました。

委員長：ありがとうございます。次の先生お願いします。

委員：ここまでの間に委員の皆様の意見等もたくさん聞かせていただいて、そうだなと思って聞いていました。アンケート結果も、学級については 2 から 3 学級が良いという点、今現在の学校配置で良いという意見が 50%というところも予想した通りかなと思っています。けれども子供の数が減っているのは事実です。私がかかなり前に南中学校勤めていた時は、全校生徒 270 人いましたが、現在、南中学校は 100 人ちょっとで、次年度は二桁になり、どんどん減ってきています。ただ、今我々にできることは、与えられた環境で子供たちをどう伸ばすか、どう育てていくかということで、全ての学年が単学級 1 学級の学校ですが、その分一人一人に光が当たる、誰もが主役になれる、そんな学校であるという自負は抱いています。

このアンケートの中で、データの束ね方で、本当にいいのかなと個人的に思ったところがあります。事務局説明の中でローデータですということで挙げていただいて、要旨のところいくつか解説等が入っていたのですが、3 つ目のカテゴリー、「理想的な教育環境について」で、現在の学校配置が良いが 50%で、統合した方が良いが 13%。統合はやむを得ないが 33%。このやむを得ないというものを、統合した方が良いというところに合わせてしまって本当に良いのか、というように見ていました。合わせて 46%。この統合はやむを得ないという方々は、「今のままでもいいけれども、結局は統合しないといけない」、そういった考えというか、本当はこのやむを得ないという方々についても、精査な調査が必要だったのかな。ただ、短期間でまとめていただいているので、大変だったかなと思いますけども、ここまでの皆様のお話を聞いていて、慎重に進めるべきところではないかと思ったところです。ただ、このデータの見方、束ね方、二次データの作り方というところで、ちょっと感想を抱きました。

委員長：貴重なご指摘ありがとうございます。続きまして、議員の方々からもご意見いただきたいと思いますので、お願いします。

議 員 : アンケートを取ったことによって、どういった考えが多いのかとか、どういった課題があるのか、メリット、デメリットは当然あるので、それがある程度分かったのは良かったと思います。先程いろいろ、例えば通学はどうするのかとか、駐車場をどうするのかとか、いろんなことがあったと思いますが、将来的なこと、このアンケートはあくまでも学校のあり方に関するアンケートなので、今後それをどのように生かして、またこのアンケートをどのようにつなげていくのかということが私は大事だと思います。また、出生数も考えていくと、小学校 2 つ各々、1 クラスでいかざるを得なくなるような出生率出生数であると思うので、そういったところも考えていかなければならないと、このアンケートの調査を見て感じました。

委員長 : ありがとうございます。確かにどれぐらい先を見据えた上で考えていくか、非常に大事な指摘だと思います。ありがとうございます。

議 員 : このアンケートを見させてもらい、今皆さんの意見も聞かせていただきましたが、大洗の各学校の教育的なところは、すごく地域を生かして、子供たちも保護者の方にもしっかり理解をいただいた教育現場で、子供たちが学んでいるということを実感しました。保護者の方も、子供が少ないのはこれからどうするんだという心配をしながらも、現状各学校の教育の中は満足している部分が多々あるというのが、分かっているのかなと思います。とはいえ、先程先生の方からもありました、やむを得ないという意見の中での内容が重要なのかなと感じます。今後スケジュールを考えた時のことを考えますと、具体的にこうなったらこうなるよというのは、皆さんにお伝えしないといけない部分もありますし、この中の意見で、教育の中身について今までがある程度満足しているのに、今後統合になった場合の、内容の充実を心配する声も多分あったと思います。

それと環境整備ですね。学校が一つになった場合、今までのように施設が使えるのか、そういった確保ができるのかという心配の内容もあったかと思います。そういうことを今回のアンケートをもとに次には周知をしながら、それから地域の話があったように、地域の方にも今後学校がどうなっていくのかというの、分かってもらいながら、今後、理解を得られるようなアンケートになるのか、意見を求めるのかどんな形になるのかわかりませんが、そういったことも周知をして、皆さんに「今現状こういうふうな形でやっていますよ」、「委員会がこうにやっていますよ」といったことを分かっていたくのが大事なかなと感じました。

委員長 : ありがとうございます。

議 員 : 学級については私も、2 から 3 学級というのがいいのかなと思います。これはアンケートが予想通りだなというところです。

地域性の問題につきましては、いろいろあるかと思います。前から私は思っているのですが、北エリアと南エリアの生徒さんの地域性ですか、ちょっと性質が違ふところがあると思います。

それから先程から出ている地域力です。地域に学校がなくなると、その地域が衰退してしまうというような心配があるかと思います。

あとは先程も出ていますが、昨今の出生数の少なさです。2 クラス分くらいの出生数しかないのです、今小学校 2 つ、中学校 2 つですけど、どちらにしてもいずれ、1 つに絞らな

ければならないという時期が来るかと思います。ただ、今は、この 2つの小学校、2つの中学校で学校が成り立っていますので、慌てて答えを出す必要はないのかなと思いました。もう一つは、将来生まれてくるお子さんの保護者の方の、意見も十分に取り入れながらやらないといけないかなと思いました。

委員長 :ありがとうございます。

議員 :ほぼ出尽くしたのかなと感じています。この検討委員会は、まず何らかの結果を出していかなければならないのかなと感じていますし、先程委員さんからもありましたように、これまでも 4つを 2つに統合した、その時の大貫小と夏海小の時、若干最初は障害があったけれども、それも打ち解けて今問題がないという、まさにそうだと思います。当時の委員さんからもありましたが、磯小と祝町小の時はマンモス校と小さい学校の統合で、あの時は本当に祝町の子供たちではなく、保護者の皆さんからの抵抗が非常に大きかったという感じでいました。例えば制服がどうだとか、校歌はどうだとか、校名がどうだとか、いろんなことがありながらも、それを乗り越えてきて、では 4校が 2校になった今、統合しなかった方が良かったと思っている人がいるかという、まずいないだろうと思います。そういう意味でも統合を進めるわけではありませんが、現状はそういうことになっているだろうと思いますし、先程もお話にありましたが、出生数がこれからさらに減っていく、どこで先止まりになるかわかりませんが、これからさらに減っていくという認識をしっかりとって検討をしなければならないと思います。

先程「統合をやむを得ない」と回答したところのお話もありました。これをどう捉えるかというところもあると思いますが、統合はやむを得ないから統合して良かったと思ってもらえるような教育の現場、そして教育の質というところを今後どう高めていくのかというところが課題…重要なと思います。冒頭に委員からありましたように、様々な不安をどのように払拭していくのか、その辺を、教育長は様々な学校でもたくさんの学校の統合を経験しているわけですから、そういった事例もアドバイスいただきながら、不安をどう減らしていけばいいのか、どう進めていけばいいのかというところは、いろいろノウハウを持たれていると思いますので、その辺のところ、後ほどお話をいただきたいと思います。

学校は昔から地域のシンボリックなものだったと思いますし、第一中学校校長先生からもありました。そういうところも、今の社会性というところからいくと、だいぶ変わってきたのかなと。例えば、もう本当に小さい村のような所、逆にすごい都会のような所がいつまでも学校のようなところが、シンボルが残っているのかという、やはりこの今の社会性といえますか、時代の流れとともに徐々に変わってきている。この大洗のまちづくりを今後どうしていけばいいのか、地域をどのように今後維持していくのかというところを、やはり地域の皆さんのご意見もいただきながら、学校の配置のあり方、今後の検討をしていかなければならないのかなと思います。

最後に町側、議会としての立場としての話になりますが、非常に財政的に厳しいという今、その財政が厳しいから学校を減らす、統合やむを得ないということではありません。そうではなくて、統合することによってこういうプラスがある。そして、先程冒頭もお話をさせていただいたように、最初は抵抗があったけど、統合してやっぱり良かった。大人数になったことによって、一時ダメだった部活動もできるようになったし、体育祭、運動会も随分形も

変わったし、やっぱりやって良かったねと思ってもらえるような教育環境、現場をしっかりと作っていかなければならないのかなと、皆さんのお話を聞きながら思いました。しかし、先程冒頭にもありましたように、登下校の不安、安全確保、ここが非常に重要だと思います。例えば茨城町、小美玉、大宮、常陸太田というような、本当に土地の広い所、そういう所でもどんどん統合を進めて、バスで登校しているのですが、そういう所から見れば、我が町は県内 44 市町村の中でも面積が下から 2 番目くらい、小さい所ですから、その中で子供たちの安全確保をしていくことはさほど難しくはないだろうと、その部分に関しては感じています。

委員長 :ありがとうございます。またこのあり方委員会を超えるようなお話でありました。過去のご経験を踏まえていただいて、長谷川教育長からお願いします。

教育長 :本当に貴重な意見ありがとうございました。最初にありましたように、子供が多くなればいいというのが一番なのですが、そうは言っていられないということと、現実でいきますと、大洗の児童生徒数は水戸 4 中より少なく、1つの学校より 4つの学校合わせた数の方が少ないという現状です。ただ私も、学校は学校だけで教育は成り立たないと思っています。大洗町は地域のスペシャリストがいて、地域の方が本当に学校を愛してくれています。アンケート結果の南エリアの方は、「現在の配置で良い」という結果が多い。大洗小、一中の方が「現在の配置」ではなく統合の方がいいという、そういう訳でもありません。いろいろな考え方があると思います。

私の経験の話をさせていただくと、7校が 1つになった時の1つの校長で、児童生徒が 40 人くらいの学校でのことです。保護者や地域の人には「学校はなくなるんだよね」とよく言われていました。私がいつも言っていたのは、「学校がなくなっても地域はなくなりません」と。「地域で子供を育ててほしい」と言いながら、学校でのことをどんどん地域に PR しました。小さな学校で小学校から中学校へ行くと、不登校の児童生徒が多くおりました。

先程話に出ましたが、来年度の南小の新 1 年生は、15 人です。大洗小学校でも 50 人です。そのようにどんどん少なくなっているのも現実であって、今後はどうなっていくのか何とも言えませんが、数の上では、令和 13 年度にはどちらの学校に行っても入れる人数になります。先程、委員さんから強い決意を言っていただきましたが、やはり地域の方は、地域にある子供たちが大好きなのは分かります。磯浜の子と大貫の子が違う、違うのは当然です。しかし、「みんな大洗の子供たちだ」というイメージを持っていかないといけないと思います。

それから、いつも自分に問いかけているところがあります。「学校って本当に必要か」「学校がなくても大丈夫じゃないか」。しかし、「やっぱり学校は必要だ。」と思うところに子供たちを預けたいし、そういった学校でなければならないと考えています。

アンケートの中の子供たちの意見がすごいですよね。「分からない」の回答が多く、この言葉に尽きると思いますが、保護者や教職員、保育施設従事者の方は「分からない」の回答は少ないんです。保護者は「現状のママが良い」、子供たちの「分からない」は、子供たち自身が決めることではない」と思っているのかもしれませんが。だけでも、より良い環境のためにはしっかりと議論して決めていかないといけません。

子供は順応性がありますから、必ずすぐに慣れます。慣れないのは保護者ではないかと思

います。ですから、保護者にどれだけの情報を伝えて、安心をさせていくかが大事だと思います。

例えば、現に大子町は中学校が1つになったわけです。大きなエリアの中で、1時間バスに乗っている中学生もいます。それがいいのかどうかはわかりませんが、大洗町は面積が狭い分、自転車でも通える範囲だと思います。8 km、10 km自転車通っている大宮の中学校もあるわけですから、それから考えていくと、いろいろな方法を考えて、皆さんと共有していかなければいけないのかなと思います。どうしたら子供たちが平和で安心して学校に通えるか。大洗町の子供たちを育てるというイメージを大人が持っていかなければいけないといつも思っています。

最後に、これまでもお話させていただいておりますが、仮に統合した場合、どちらに移動するにしても、残った施設をどのように利活用していくのか。一番古くて南中が25年です。150年の学校だったら分かりますが、どの学校もまだまだ新しい学校なので、町づくりの視点も合わせて考えていかななくてはいけないのかと思います。学校だけではなく、どんな町にしていこうかということが大事になってくるのかなと私はいつも思っています。

委員長 :ありがとうございました。

議長ですので、私見を挟むことは差し控えますけれども、やはり原点に返って、子供さんにとって理想的な環境はどうあるべきか、ということ、数年先を見据えてここで議論すべきですし、そのためにいろいろな方向性が多少変わっていくのであれば、そのために先程言いましたように、保護者の方とか児童生徒が抱える不安とか、そういうものをいかに払拭するような中身の濃い議論ができるかと思うと、それをうまくまとめることができると思っています。貴重なご意見、本当にありがとうございます。冒頭申し上げましたように、今日ここでまとめることは難しいので、今日皆様方からいただいた意見を事務局で改めてまとめていただいて、この会議で、このアンケートをどう捉えるかということをもとめていただければと思います。それをまとめた案を作っていただいて、各委員の方に戻していただき、さらにご意見をいただいてブラッシュアップできればと思います。ここまでで、各委員から貴重なご意見をいただきましたが、このアンケートについて事務局としてどのように捉えているか、見解があればお願いします。

事務局 :皆様方のご意見に尽きるところではあると思いますが、このアンケートのまとめとしては、複数学級を望む意見が多く見られているということ。また、少子化に伴う児童生徒の減少から、将来的な統合はやむを得ないという意見が見られているのも事実であると思っています。また一方で、統合による通学距離の増加、送迎の負担、安全面、環境変化への不安なども非常に強いという結果であると思っています。あわせて、少人数教育のきめ細やかさなどを評価する声とか、複数学級による人間関係の広がりや、部活動の充実を求める声が併存しているところかと思っています。全体としては単純な賛否ではなくて、地域性や学校の特色を踏まえつつ、現状の不安の解消に努め、条件整備を前提に慎重な検討を求めるという傾向がうかがえると捉えています。

委員長 :今の事務局の見解に加えて、今日皆さんから出していただいたご意見も踏まえた上で、このアンケート結果のまとめの案を作っていただきまして、次回の委員会には皆さん方にご提示をいただきたいと思います。そういった整理の仕方で皆様よろしいでしょうか。

委員等：異議なし。

委員長：ありがとうございます。そのような形で進めさせていただきたいと思います。ここからどう進めていくか、これがまさしく大事なことだと思いますので、次の今後の進め方について事務局から説明をお願いします。

事務局：本日、皆様からの様々な意見をいただきました。なるほどと思うことがたくさん感じられたところです。それらの意見と、事務局としての今回のアンケートの解釈というものも加えながら、議長から指示がありましたように、この委員会としてのアンケートのまとめを作っていきたいと思います。その後皆様からも意見がありましたように、広く周知していかなければならないということもありますので、周知をしていく段階で、町の財政的な視点であるとか、あるいは教職員の人的な課題とかには触れておりませんので、そういうところも合わせまして、今後情報を出していかなければいけないと思っています。まちづくり課長がありますが、今年度の予算編成、あるいは将来の予算、町の財政的なところを見ると非常に厳しい状況であります。そういった情報なども伝えながら、学校のあり方の検討を分かっていたいただけるような資料が必要なのかなと考えております。まずアンケートのまとめをお出しして、次回の検討委員会の時に、財政的な視点も皆様にお示ししていただければと思います。それによって例えばその地域の方にもお声がけして、懇談会を行い、その後協議意見をいただくということもあるのかなと思いますし、またその時に細かい課題に対する対策などもきちんと出さないと、議論にならないと思いますので、その辺を整理していきたいと思います。まずはアンケートのまとめと、プラスその財政的な視点の説明材料を作っていきたいと考えています。

委員長：事務局から今回はそのアンケートということで、理想的な教育環境はなんだろうかということでアンケートをとっておりますけども、やはりそれを実現するにも、当然お金も人もいるわけですので、その辺の材料も次回は提示をいただいて、その上でどうあるべきかについて議論が深めたらということです。そういった進め方で皆様よろしいでしょうか。そのような形で次回事務局の方で準備をいただきたいと思います。副委員長からさらにまとめをいただければありがたいです。

副委員長：今日出た話で一つ思ったこと、前もお話させていただいた気がしますが、地域の話について、僕が知っている他の所で、要するに地域が壊れてしまって、バラバラになっている所があります。そうすると、結局子供の教育が学校だけに押し付けられるというか、そういう地域があります。地域づくりとこの今後の学校のあり方はすごく深く関係していて、それを同時に考えないといけないので、ぜひ懇談会はやってほしいし、本当に地域壊れてしまうと学校統合をしなくても、結局ダメになっているんです。だからそういうことを踏まえて地域づくりをしながら統合の話も、それをどういうふうに展開していくかということを、合わせて次回ご意見などをいただけたらと思って聞いていました。

委員長：ありがとうございます。次回はそういった形で臨ませいただきながら、その後、懇談会というお話ございましたけど、地域の方にも出向くなりしてご意見をいただくという形で進めたいと思っています。

委員長：それでは次回の日程について説明をお願いします。

事務局：来月実施の考えもありましたが、今日の会議を経て、課題というか、少し時間をかけた方

がいいかなと感じましたので、5月末ぐらいに考えたいなと思います。例えば、5月22日金曜日ではいかがでしょうか。(意見なし) それでは一旦22日とします。それからこの会議の議事録・資料をホームページに開催した後に整理してお出ししていますが、この今日のアンケートの結果は、先程説明しましたように、再度まとめて、確認ができてから出した方がいいかと思うのですが、よろしいでしょうか。(異議なし)

委員長 :ではアンケートのその具体的な取り扱いにつきましては、事務局からありましたように、次回その今日のご意見も踏まえてまとめてもらいますので、それを基にご協議いただいた後で出すということでよろしいでしょうか。(異議なし) ありがとうございます。それでは、本日提出していました議事は皆様のご協力で終了いたしました。長々進行で大変ご迷惑をおかけしました。 ありがとうございます。 では進行を事務局に戻します。

事務局 :長時間にわたり大変ありがとうございました。事務局だけでは出てこないような意見をたくさんお聞きすることができました。今日の意見を整理して、また教育長とも相談しながら進めていきたいと思います。 また、途中でメールなどしながら確認していただくこともあるかと思うので、その時はよろしくお願いします。本日は大変ありがとうございました。

(閉会)